



小田原男声合唱団

第36回定期演奏会

牛は牧場を	く	た	り	け	り。
風に送られ	日	を	浴	び	て
夕日の光	な				
夏のおゆるか	こ	そ			
夏の牧場の	青	草	に		
あたまの牛は	は	ほ	ち	け	り。
あたまの牛を	ひ	ろ	び	ろ	と
空の真下に	散	り	に	け	り。

尾崎喜八

50

2007.12.8(土) 午後2:00 開場 午後3:00 開演
 小田原市民会館大ホール

- 主催 小田原男声合唱団
 後援 小田原市教育委員会
 日本男声合唱協会 (JAMCA)
 神奈川男声合唱協会 (KAMCA)
 湘南合唱連盟
 小田原地区合唱連盟
 小田原音楽連盟

§ プログラム §

I Négy régy magyar népdal
4つの古いハンガリー民謡

指揮 外山 浩爾

Béla Bartók 作曲

Ave Maria
アヴェ・マリア

Franz Biebl 作曲

II Schubert 合唱曲集

Franz Peter Schubert 作曲

Gesang der Geister über den Wassern 水上の精霊の歌
Das Dörfchen いとしき村
Psalm 23 詩篇23

指揮 外山 浩爾
ピアノ 中根 希子

休 憩

III 男声合唱のための唱歌メドレー
ふるさとの四季

故郷
春の小川
麗月夜
鯉のぼり
茶摘
夏は来ぬ
われは海の子
村祭
紅葉色
冬景色
雪郷

源田 俊一郎 編曲

高野 辰之 詩 岡野 貞一 曲
高野 辰之 詩 岡野 貞一 曲
高野 辰之 詩 岡野 貞一 曲
文部省唱歌
文部省唱歌
佐佐木 信綱 詩 小山作之助 曲
文部省唱歌
文部省唱歌
高野 辰之 詩 岡野 貞一 曲
文部省唱歌
文部省唱歌
高野 辰之 詩 岡野 貞一 曲

指揮 牛丸 紘一
ピアノ 中根 希子

IV 男声合唱組曲

尾崎喜八の詩から

尾崎 喜八 作詩 多田 武彦 作曲

指揮 外山 浩爾

冬野
最後の雪に
春愁
天上沢
牧場
かけす

4つの古いハンガリー民謡 BB. 60 (1910年) ベーラ・バルトーク (1881-1945)作曲
アカペラ、4声男声合唱 (ハンガリー語による)

1911年5月13日に、ハンガリー南西部の都市セゲドで開催されたリスト生誕100年記念式典にて、当時30歳であったバルトークはリスト《ピアノ協奏曲第1番》を演奏し、そしてこの《4つの古いハンガリー民謡》が当地の合唱団により初演された。

1906年よりバルトークは、ゾルターン・コダーイと共にハンガリー農村に蓄音機を担いで民謡採集旅行を精力的に行った。1907~09年頃、採取した旋律を引用した作品を盛んに書き、バルトークは民俗音楽から編み出した独自の作曲技法を確立してゆく。1910年に作曲したこの作品は、当初からハンガリーの新しい合唱芸術スタイルと反響を呼び、3年後にコダーイが初の男性合唱曲を発売して追隨している。

4つの民謡は全てバルトーク自身が採取したハンガリーの古い層に属する旋律である。第1曲「昔、言ったのに、悲しい小鳩よ」は、バルランド・ルバート・リズム(言葉のリズムによって揺らしながら歌う)でゆったりと歌う哀歌。第2曲「ああ神よ、僕はブダペストへ行く」は男性的な舞踊リズムの明るい曲。第3曲「義姉の庭」はユーモラスで屈託のないひやかしか。第4曲「少年よ、荷馬車に干草をしっかりと積み込め」の旋律は、古いハンガリー民謡によくみられる、後半の旋律が5度下がるABAB形式。3拍子と2拍子の歯切れいい交替拍子にのって、華やかなフィナーレを形成している。これら4曲から、採集旅行で得たバルトークのハンガリー民謡への大きな感動が見事に伝わる。

[解説: BARTOK ピアノ作品研究家 パップ・晶子]

I.

1) Rég megmondtam, bús gerlice,

Ne rakj fészket útszéjire!

Mer az úton sokan járnak,

A fészkekből kihajdásznak.

2) Rakjál fészket a sűrűbe,

Bánatfának tetejibe;

Aki kérdi: eszt ki rakta?

Mongyátok: egy árva rakta.

Kinek sem apja, sem anyja,

Sem egy igaz atyjafia.

II.

1) Jaj, istenem! kire várok:

Megyek Budapestre,

Ott sétálok a lányokkal

Minden szombat este.

2) Ki piroситom az arcom

Magam nagyra tartom;

Úgy szeretnek meg engem a lányok

Ott a Dunaparton.

III.

1) Ángyomasszony kertje, bertje,

Nem tudom mi van belévetve:

Szedereje, bederje,

Kapcsom donom donom deszka,

Kántormenta fodormenta,

Jaj de furcsa nóta, ugyan cifra nóta,

2) Csűröm alatt öt rozsasztag,

A kertembe hat rozsasztag,

Szedereje, bederje,

Kapcsom donom donom deszka,

Kántormenta fodormenta,

Jaj de furcsa nóta, ugyan cifra nóta!

I.

1) 昔、言ったのに、悲しい鳩ちゃんよ

道端に巣を作るなど!

道の往来は多く

巣から追いつ出される

2) 深い森に巣を作りなさい

悲しい木のてっぺんに

「誰がこの巣を作ったの」と聞かれたら

「ある孤児が作った」と答えなさい

父も母もない

一人として身寄りのない孤児が

II.

1) ああ、神様! 僕は誰を待つ

ブダペストへ行く

そこで女の子たちと散歩する

毎週土曜の夜に

2) 頬を赤らめ

僕は自信にあふれる

そんなに女の子たちは僕に夢中

ドナウの河岸で

III.

1) 義理の姉のお庭、鬼は(語呂遊び)

何が蒔いてあるんだろう

木イチゴ、義イチゴ(語呂遊び)

鍵ホック、ドノム、ドノム、板(意味なし)

ばっか、はっか(語呂遊び)

ああ、何て可笑しく、気取った歌

2) 納屋の下に5つの大麦のたば

庭に6つの大麦のたば

木イチゴ、義イチゴ(語呂遊び)

鍵ホック、ドノム、ドノム、板(意味なし)

ばっか、はっか(語呂遊び)

ああ、何て可笑しく、気取った歌

IV.

- 1) Béreslegény, jól megrakd a szekeret,
Béreslegény, jól megrakd a szekeret,
Sarljútiske böködje a tenyered,
Sarljútiske böködje a tenyered!
- 2) Mennél jobban böködi a tenyered,
Mennél jobban böködi a tenyered,
Annál jobban rakd meg a szekeredet,
Annál jobban rakd meg a szekeredet!

IV.

- 1) 日雇い少年よ、荷馬車に干草をしっかりとめ込め
日雇い少年よ、荷馬車に干草をしっかりと詰め込め
干草が君の掌をチクチク刺す
干草が君の掌をチクチク刺す
2) 君の掌を刺せば刺すほど
君の掌を刺せば刺すほど！
しっかりと干草を積み込め
しっかりと干草を積み込め！

[パップ・晶子 訳]

Ave Maria Franz Biebl 作曲

Franz Xaver Biebl (1906~2001) は、ドイツにおける合唱音楽の重鎮の一人である。第二次世界大戦中、戦犯としてミシガン州の Fort Custer に監禁され、アメリカの文化に触れるとともに、合唱の編曲活動を許される。戦後、ミュンヘン近郊の教会の合唱隊のマスターとして勤めていた時、合唱隊にいた消防隊員から、消防隊のコーラスコンペティションのための作曲を依頼され、1964年、Ave Maria が誕生する。当初は男声二重唱の構成で、長い間、注目を浴びなかった。一方、この間、彼はバヴァリア州ラジオ放送局の合唱音楽部門の director も勤めており、ラジオを通して米国コーネル大学ダリークラブとドイツのコーラスグループとが共演する機会を設けた。このダリークラブを率いる Tom Sokoll が Ave Maria を持ち帰って、アメリカでこの曲の人気の高まった。そして作曲されてから30年後に Chanticleer がレコードを出したとたんに、米・独で急激にヒットした。Biebl は、7声（3声のソロパートと4声のコーラスパート）の構成の編曲もしており、これが現在最もポピュラーな編曲として歌われている。

この Ave Maria の原詩は、神の天子のお告げに從ってマリアが精霊の力によって懐胎したという神の御業を絶えず賛美して、カソリック教会における Angelus liturgy（朝、昼、晩のお告げ（受胎告知）の礼拝式）のときに詠われるお祈りである。

• Angelus Domini nuntiavit Mariae,
Et concepit de Spiritu Sancto

• Ave Maria, gratia plena
Dominus tecum

Benedicta tu in mulieribus

Et benedictus fructus ventris tui, Jesus

• Maria dixit

Ecce ancilla Domini

Fiat mihi secundum verbum tuum

• Et verbum caro factum est

Et habitavit in nobis

• Sancta Maria, mater Dei

Ora pronobis peccatoribus,

Nunc et hora mortis nostrae, Amen

神の天使がマリアにお告げになった、
そして、マリアは精霊によって懐胎された

幾久しきマリアさま、あなたは優しさに満ち溢れ、
主はあなたとともにおられます。

女性としてあなたを褒めたたえましょう、
そしてあなたがイエスさまをその胎からに
実らせたことを喜びましょう。

マリアは言った

私は、主のはしためです。

御言葉どおり、この身になりますように。

そして、御言葉は肉となり、

そして、私たちの中にお住まいになった。

聖なるマリアさま、神の御母

どうぞ罪深き私たちのことを見守ってください、

今も臨終のときも（限りある命の）

私たちのことを、アーメン

(参考資料：<http://www.cantusquereus.com/ave.htm>, <http://www.cantusquereus.com/biebl.htm>)

(参考資料：<http://www.soundpie.com/dic/latin.htm>, <http://mikio.wada.catholic.ne.jp/Angelus.htm>)

[文責：T 2 福井 隆]

シューベルト (1797-1828)

シューベルト合唱曲集

「歌曲の王」と称されるシューベルト (1797-1828) はその31年の短い生涯の中で、あの未完成交響曲等8曲の交響曲や室内楽、ピアノ曲、オペラ等多岐のジャンルわたり数多くの名曲を残しているが、なんとといって「魔王」「冬の旅」をはじめとする約600曲の歌曲の作曲家として歴史に名を刻んでいる。

歌曲の作品ほど一般的には知られていないが合唱曲にも多くの優れた作品を残している。シューベルトは少年期には聖歌隊でボーイソプラノとして伝統的な合唱音楽に接し、長じてはサロンの仲間達と男声アンサンブル(セカンダリテナーで歌っていた)に興するなど合唱というジャンルは特別の対象であったようである。作品は宗教曲として混声合唱のミサ曲が45曲、世俗の合唱曲では男声合唱が57曲、混声30曲、女声6曲のほか三重唱曲等61曲の作品がある。

合唱音楽はキリスト教の聖歌、典礼曲として発展を遂げ、中世以降はマドリガリガル等世俗曲にも広がっていたが、作品の殆どはSATB四声部の合唱が主流であった。同声合唱も少数はあったが、本格的な「男声合唱作品」はシューベルト以前には殆どない状況であった。音楽史上に出てくる「四声部男声合唱曲」は1788年(シューベルトが生まれる9年前)にミヒエル・ハイドゥンがザルツブルグの司祭の要請で作曲したのが最初と言われているが、男声合唱の豊かな響きの魅力は忍びなくザルツブルグからウィーンに広がり、男声合唱の伝統が始まったといわれている。

同時期にドイツでも男性だけで合唱を楽しむ人達により、1809年にリーダーターフェル(男声合唱団)が創設され、フリーメイソンの活動や同時期に流行していた体育運動と共にドイツ各地に波及し多くの男声合唱団が誕生した。

シューベルトの活躍した時期は将に男声合唱興隆の黎明期にあたり、そのような時代の趨勢と自らの合唱に対する特別の興味優れた男声合唱曲を生み出す動機や推進力になったと考えられる。

作品は歌曲と同様、詩への深い理解と共感を独創的な美しいメロディー、多彩なハーモニー、そして斬新な声部で展開され、豊かな叙情性を漂わせている曲が多い。その作品は「男声合唱の古典」と称されて今日まで世界中の男声合唱団の重要なレパートリーになっている。

昨年に引き続き本年もその作品の中から特に歌われる次の3曲を演奏する。

1. Gesang der Geister über den Wassern 水上の精霊の歌 (1817) 詩 J.W.ゲーテ

人のいのちは水に似ている。天から来て天へとのぼり、そしてまた再び地上へと降りてくる…。この深淵なる意味を持つゲーテの詩は長年シューベルトを捉えて、この無伴奏男声四部合唱の発表の後に、全く別の曲として低弦付きの男声八部合唱を書いている。多彩なハーモニー、対位的な手法、転調を駆使した無伴奏合唱の中ではスケールの大きい変化に富んだ名曲である。

2. Das Dörfchen いととき村 (1817) 詩 G.A.ビュルガー

私はこの小さな村を誇りに思っている…。で始まる素朴な詩にシューベルトが心から親しみ感じている様やその温かい人柄を彷彿とさせる。前述した19世紀初頭の男声合唱興隆期にシューベルトの作品としては初めて歌われた。

全作品の中でも最も早く一般大衆に認知された曲といわれている。

3. Psalm 23 詩篇 23 主は私の牧人 (1826) 独語訳 M.メンデルゾーン

旧約聖書にあるキリスト教において最も親しまれている詩篇で、多くの作曲家が作品を残している。オリジナルは1820年に女声四部合唱として作曲され、1826年、男声四部合唱版が出版された。

3連音符のピアノ伴奏の上に比類なき美しいメロディーとハーモニーが展開され精霊なる叙情性を醸し出している。

1. 水上の精霊の歌

人のいのちは水に似ている
天から来て天へと登りそして再び、地上へと降りてくる
永遠のうつろい
高く険しい岸壁から、澄んだ噴流が走り
やがて優しく波打つ雲となって、滑らかな岩肌 to 散る
そして軽やかに抱きあい、霧の覆いを巻き上げて
かすかにつぶやくように深みへともぐって行く
岩壁がそびえる
激流に逆らって流れは怒りに逆巻き、一歩ずつ深みへ戻ってゆく
風は波の愛しきあこがれ
風は水底からかき混ぜて泡立つ波をおこす
人のいのちはなんと水に似ていることか
人のさだめはなんと風に似ていることか

2. 愛しき村

わたしはこのかわいい村を誇りにおもっている
まわりのどこよりも美しく咲き誇るみわたす限りの牧場があるから
そこには実りあふれる畑と緑の牧場
青々とした森が壁をなし丘の上には羊が放されている
その近くには私の無憂宮がある
わたしはお気に入り的小さな隠れ家をそう呼んでいるのだ
そこでは思うままに暮らしている
椀と葡萄で編んだ緑の織物がすべてを覆っている
リンボクが茶色のすき間を飾り ポプラがあたりの気配を青くする
明るい小川が柔かい足取りで銀色の小石の上をおだやかに流れている
枝々がその上に丸天井のようにやさしくたわんでいる中をはずかしげに足早に流れて行く
その底に映しているのは子羊が動く緑の丘、岸辺の茂みと魚のすべて
ドジョウが滑るように泳ぎ 真珠のような泡を作る
その早い動きはある時は下に向かい ふたたび水面へと上がって来る
おお なんという幸福 時が過ぎてもこわれることのないように
新鮮な血潮と楽しい気分をいつまでもわたしに与え給え
おお なんという幸福！

3. 主はわたしの牧人

主はわたしの牧人です だからわたしは不満を感じることはないでしょう
神は緑の野にわたしを招き、静かな小川へと導いて下さいます
神は悩める心を慰め、その名の誉れへと続く正しい階梯へと導いて下さいます
死の影のただよう谷を行くときにも、わたしは恐れることなく行くでしょう
あなたがお護り下さるからです
あなたは杖となり、支えとなつていつもわたしを慰めて下さいます
あなたは敵対する人々を前にして、わたしに祝福の宴を開いて下さいます
あなたはわたしの頭に油を注ぎ、溢れる杯をわたしに下さいます
この時よりわたしには生涯栄光と至福がついてまわるのです
やがてわたしは永遠の王国で、永遠の時に憩うのです

故郷 尋常小学唱歌第六学年用(大正3年)

- 一 鬼追いしかの山、
小鮒つりりしかの川、
夢は今もめぐりて、
忘れがたき故郷。
- 二 如何にいます父母、
恙なしや友がき、
雨に風につけても、
思ひいずる故郷。
- 三 こころざしをはたして、
いつの日にか帰らん、
山はあおき故郷、
水は清き故郷。

春の小川 国定教科書 三年の音楽 (大正元年) (林 柳波 改作)

- 一 春の小川は さらさら行くよ。
岸のすみれや れんげの花に、
すがたや さしく 色うつしく
咲けよ 咲けよと ささやきながら。
- 二 春の小川は さらさら行くよ。
蝦やめだかや 小鮒の群れに、
今日も一日 ひなたでおよき
遊べよと ささやきながら。

朧月夜 尋常小学唱歌第六学年用(大正3年)

- 一 菜の花畠に 入日薄れ、
見わたす山の端 霞ふかし。
春風そよふく 空を見れば、
夕月かかりて におい淡し。
- 二 里わの火影も 森の色も、
田中の小路を たどる人も、
蛙のなくねも かねの音も、
さながら 霞める 朧月夜。

鯉のぼり 尋常小学唱歌第五学年用(大正2年)

- 一 蕨の波と雲の波、空を、
重なる波の中 空を、
橘かおる潮風に、
高く泳ぐや 鯉のぼり。
- 二 開ける広き其の口に、
舟をも呑まん様見えて、
ゆたかたかに振う尾緒には、
物に動せぬ姿あり。

茶摘 尋常小学唱歌第三学年用(明治45年)

- 一 夏も近づくと八十八夜、
野にも山にも若葉が茂る。
「あれに見えは茶摘じやないか。
あかねだすきに菅の笠。」
- 二 日とつづきの今日此頃を、
心のづかに摘みつつ歌う。
「摘めよ摘め摘まねはならぬ。
摘まにや日本の茶にならぬ。」

夏は来ぬ 新編教育唱歌集第五学年用(明治29年)

- 一 うの花のおう垣根に 時鳥
早もきなきて 忍音もらす 夏は来ぬ。
- 二 さみだれのそそぐ山田に 早乙女が
裳裾ぬらして 玉苗ううる 夏は来ぬ。

われは海の子 尋常小学読本唱歌(明治43年)

- 一 我は海の子 白浪の
さわぐいそべの松原に、
煙たなびくとまよこそ
我がなつかしき住家なれ。
- 二 生れてはおに浴して
浪を子守の歌と聞き、
千里寄せくる海の気を
吸いてわらべとなりけり。

村祭 尋常小学唱歌第三学年用(明治45年)

- 一 村の鎮守の神様の
祭日はめでたい御祭日。
どんどんひややら、どんひややら、
どんどんひややら、どんひややら、
朝から聞こえる 笛太鼓。
- 二 年も豊年満作で、
村は総出の大祭。
どんどんひややら、どんひややら、
どんどんひややら、どんひややら、
夜まで賑う宮の森。

紅葉 尋常小学唱歌第二学年用(明治44年)

- 一 秋の夕日に照る山紅葉
濃いも薄いも数ある中に、
松をいろどる楓や藁は、
山のふもととの裾模様。
- 二 溪の流に散り浮く紅葉、
波にゆられて離れて寄って、
赤や黄色の色様々に、
水の上にも織る錦。

冬景色 尋常小学唱歌第五学年用(大正2年)

- 一 さ霧消ゆる湊江の
舟に白し、朝の霜。
ただいま水鳥の聲はして
いまだ覚めず、岸の家。
- 二 鳥啼きて木に高く、
人は畑に麦を踏む。
げに小春日のどけしや。
かえり咲きの花も見ゆ。

雪 尋常小学唱歌第二学年用(明治44年)

- 一 雪やこんこ 霰やこんこ
降っては降っては はずん積る。
山も野原も綿帽子かぶり、
枯木残らず花が咲く。
- 二 雪やこんこ 霰やこんこ
降っては降っては だ降りやまぬ。
犬は喜び庭駆けまわり、
猫は火燵で丸くなる。

男声合唱組曲『尾崎喜八の詩から』

作詞 尾崎喜八 作曲 多田武彦

男声合唱組曲『尾崎喜八の詩から』を作曲された多田武彦先生は、尾崎喜八の詩について次のように書いている。

『1973年（昭和48）』に初めて作曲させて頂いた尾崎喜八先生の詩には、清廉さと謙譲さを合わせ持った響きと光彩があつて他の先生（北原白秋・草野心平・中原中也・伊藤聖・三好達治などの諸先生）の詩によるものは、また、異なつた男声合唱組曲ができた。』（「尾崎喜八の詩から・第3」作曲者ことば）と。

尾崎喜八は、大正11年処女詩集『空と樹木』により詩人としての本格的な活動をはじめ、戦争（大東亜戦争）という試練を乗り越え、更に、精神性を深め昭和49年、82歳で鎌倉に没している。

尾崎喜八の詩の特色は、その口語自由詩の完成度の高さ（三好達治の言葉）にある。高村光太郎に私淑しその精神性を、千家元磨等白樺派から自然描写を、そして、欧米の詩人の翻訳を通し詩の様式を自分のものとし、処女詩集から一貫した詩的探究の結果として人々の心に深く、鮮明な印象を残す詩が生まれたと言えるだろう。

男声合唱組曲『尾崎喜八の詩から』では、尾崎喜八の生涯を通じた主な詩集の中から6編が選ばれ作曲されている。

I 「冬野」 詩集『花咲ける孤独』（昭和30）

詩人60歳の詩集である。同じ詩集に「あわれ流寓七年の永いよしみを囁いて」（「故地の花（妻に）」）という詩句がある。散文詩『高原暦日』（昭和23）の「到着」には「罪なき妻を道づれに、流浪の宿を転々とした」ともある。戦後、長野県諏訪郡富士見村に疎開し、厳しい自然と対峙する中で、更に、深い精神性を求め続ける詩人の直向きさが詩に溢れていないだろうか。

II 「最後の雪に」 詩集『高層雲の下』（大正13）

詩人32歳の詩集である。水野葉舟の娘、實子（みつこ）と結婚し、父親との和解が済み、精神的な充足感に満たされている時代の1編である。「私の志すところは魂の平和と心の善良と、且つ精神の自由とを通して、みづから其れと確信する此の世の美を表現するにある。」詩集の序言にある。

III 「春愁」 詩集「その後の詩帖」（未刊詩集）

昭和33年から刊行された『尾崎喜八詩文集』の第3巻に所収された1編である。昭和27年、東京に戻り「しばしば日本の田舎を訪れる」のなか「ゆくりなく」漂泊の道すがら見つけた夭折の詩人（八木重吉）の詩碑から、自らの青春の彷徨と人生の感慨を吐露していただろうか。

IV 「天上沢」 詩集『旅と滞在』（昭和8）

詩人41歳の詩集である。昭和2年に父を、昭和3年に幼い長男朗馬雄（ろまお）を亡くし、山の魅力に惹かれていく。同じ詩集に「早い春の試みのような、薄命の / 幼い雲が浮かんではまだ消える」（「秩父の早春」という詩句があり、その悲しみが、老人の視線と重ならないだろうか。

V 「牧場」 詩集『高原詩抄』（昭和17）

詩人50歳の詩集である。前年、大東亜戦争に突入し、その1年後の出版である。2年後に長女栄子が結婚し、夫が南方戦域に出征する。更に1年後、未曾有の敗戦と占領、それに伴う社会的混乱へと続く。牛の「雲の行衛（ゆくえ）」を見つめる目は、時代の空気を映していないだろうか。

VI 「かけす」 詩集『花咲ける孤独』（昭和30）

「冬野」と同じ詩集の1編である。同じ詩集に「再建された静寂の一層深い恍惚がここにある」（「林間」）という詩句がある。『高原暦日』（前出）の言葉「ああ、森よ、おまえのその新緑のふところ静かに敗残と悔恨の私を抱き取ってくれ」は、7年間の富士見村での生活を通し昇華され、その心が「かけす」の姿を追い求めていないだろうか。

男声合唱組曲『尾崎喜八の詩から』は、厳しい冬の風景（「冬野」）から始まり、早春（「最後の雪に」）、春（「春愁」）、夏（「天上の沢」）、初秋（「牧場」）、秋（「かけす」）の四季の推移と詩人尾崎喜八の精神的な深まりを重ねているのではないだろうか。

〔 B 1 伊東 清邦 〕

I 冬 野

いま 野には
大きな堅琴のような夕暮れが懸かる。
厳粛に切られた畝から畝へ霜がむすび、
風の長い星がはしり、
最初の白い星がひとつ
もつとも高いを鍵を打つ。
冬は古代のようには枯れ、
春はまだ遙かだが
予感はずでに天地の間にゆらめいている。

わたしはこの暮れゆく晚い土をふんで
わたしの手から種子を播く、
夕日のようにはみぎぎって
信頼のためには重い種子を。
それは沈む、
深く仕えるもののように、
地底の夜々を変貌して
おもむく遠い黎明をあかむるために。

きよらかな、澄んだ凝縮が感じられる。
ただ周囲の蒼然たる沈黙のなかで
わたしの心が敬虔な讃歌だ。
そうしてもう聴いている、
とりにいれの野が祭のような、
燃える正午が翡翠いろの
海のような六月を……

II 最後の雪に

田舎のわが家の窓硝子の前で
冬のおわりの花びらの雪、
高雅な、憂鬱な老嬢たちが
朝から白いワルツを踊っている。
その窓に近い机にむかって
私の書く光明の詩、
早春の夕がた、透明な運河の
水や船や労働を織りこんだ生気の詩。

雪よ、野に藪に、島に路に、
そして私の窓の前、
お前たちおの踊る典る雅なウィンナ・ワルツの
その高貴さを私の詩に加えてくれ。

やがて遠い地平から輝く春が
微風と雲雀とその前駆を送るとき、
古い詩稿に私は愛を感じるところ、
お前たち、高雅な憂鬱な老嬢たちの
窓の前での最後の舞踏のため、
私の内ですらもう楽しい記念のため。

III 春 愁

静かに賢く老いるということは
満ちてくつろいだ願わしい境地だ、
今日しも春がはじまつたという
木々の芽立ちと若草の岡のなぞえに
赤々と光りたゆとう夕日のように。
だが自分にもあつた青春の
燃える愛や衝動や仕事への奮闘、
その得意と礎の年々に
この賢さ、この澄み晴れた成熟の
ついに間に合わなかつたことが悔やまれる。

ふたたたび春のはじまる時、
もう梅の田舎の夕日の色や
暫しを照らす谷間の宵の明星に
遠く来た人生とおのが青春を惜しむということ、
これをしてもまた一つの春愁であろうか。

IV 天上沢 (押韻詩)

みずず刈る信濃の国のおおいなる夏、
山々のたまたまたた谷々の姿もとに変わらさず。
安曇野に雲立ち、岩にさえずる楡、高日は照り曇り、
砂に這う這松、言葉すくなく岩登、山者など、
さすはおりお昔へお空のほもと、
ものなり西岳へおごこせ、老人ひとり、
燕よりの若者立た漏らした水にうかんず
案内がまぶたの雪の彷彿たるを見つめていた。
天上の千筋の

V 牧 場

山の牧場の青草に
あまたの牛をはなちけり。
あまたの牛は、ひろびろと
空の真下に 散りにけり。

夏もおわるか、白雲の
きよもも峠をこえて行く。
立ち臥す牛ら 眼を上げて、
雲の行衛をながめけり。

山の牧場に 風立ちちて、
夕日の光 ながれけり。
風に送られ、日を浴びて
牛は牧場を くだりけり。

VI かけす

山国の空のあんな高いところを
二羽の鳥の半ば透きとおる光り
かけすの鳥の透きとおる光り
とあんなに波をおもてこわい者のように
空気が二度とこの名も
もかけすという仮の契り
か人間との地上の柔らかな
今はなつかしく、低く暗く
おほりのおはるとちみ
ほのぼのとうちに小く
見ると秋のあおくつめたい空の海に
深まると消えゆく……

外山 浩爾 音楽監督 / 常任指揮者



日本楽壇の功労者・外山浩爾は父に、指揮者・外山雄三を兄にもつ音楽一門の出身。幼少より音楽教育を受け、東京藝術大学に入學、柴田陸、ウーヴァー・アール・リッア・フオレン・ヘッサー諸氏に師事し、卒業後直ちに同大学及び附属高校で教鞭をとる。その傍ら藤原歌劇団に参画し、「森の歌」「ドイトツレクイエム」等のソロ活動、「カルメン」「蝶々夫人」等、数多くのオペラ活動、「歌のメリーゴーランド」「セブシヨ」等長期テレビ活動のように広範囲に活動。他方、事長、唱動にも積極的に参画し、世界合唱連合設立代表委員、東京都合唱連盟理事長、合唱活動の発展のために尽力されている。

行教育活動では、東京藝術大学附属高校副校長をはじめ東京藝術大学、鳴門教育大学の指導に努めた功により1992年には、文部大臣より教育功労表彰を受ける。1996年に小田原男声合唱団の音楽監督・常任指揮者に就任、現在に至る。大学の合唱団の指導と、現在、聖徳大学大学院教授、全日本合唱連盟相談役。

牛丸 紘一 指揮者



高校時代より合唱指揮をはじめ、大学時代は母校金沢大学合唱団の指揮者をつとめる。卒業後は京都にて製薬企業に勤務の傍ら、京都で最も伝統のある京都混声合唱団の副指揮者・指揮者をつとめ、また日本新業合唱団、コールアルミ等の指揮者として活躍した。

この間、京都交響楽団との協演時にバッハマタイ受難曲、ハイドン四季、ベートーベンのクエルクエム、モーツァルト、スゾーンのエア等の合唱指揮をつとめる。転動により小田原へ移住し、小田原男声合唱団に入団。2005年より団内指揮者をつとめる。星旭、中村外治、青山政雄、藏田裕氏に指導を受けた。

日本新業(株)取締役生産本部長を歴任。
(本日のアンコールのために「千の風になって」を男声合唱に編曲したのでお聞きください。)

中根 希子 ピアノ

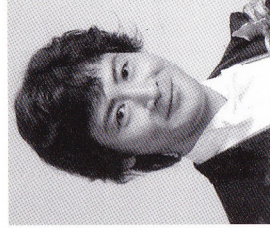


東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。第4回かながわ学生音楽コンクール入賞。第3回長江杯国際音楽講習会マスタートークラス参加、修了演奏会に出演。

ウィーン、シカゴ等での音楽講習会コンサートでは、若手実力派演奏家として毎日新聞に紹介される。また、同年、ポーランド共和国大使館後援「日本ポーランド国交樹立80周年記念及び国際ショパン記念演奏会」に出演し、好評を博す。

2000年「ピアノ名曲集」のCDを発売。2001年小田原市記念事業製作の「新童謡CDにピアノ初演で収録。また、2005年3月に第2作目のCD初演収録。市民による第九演奏会～」のピアノアシスタントを務め、好評を博す。国内外に活躍の場を広げ、歌曲伴奏、室内楽等の演奏会やレコーディング、また、FM小田原の出演等幅広く活躍。これまでに植田克己、佐藤俊、ノエル・フローレスの各氏に師事。東京ミュージックアーツ所屬、藝大小田原市人会員。小田原在住。

杉山 範雄 ヴォイス・トレンナー



10歳より小田原少年少女合唱隊に入隊。ルネサンスから現代曲まで、主にアカペラ、宗教曲をはじめ、湘南工科大学附属高校卒、東京藝術大学音楽部声楽科を経てオオハラ、宗教曲をはじめ、丹沢音楽祭、2007年3月に小田原市民劇場、小林研一郎指揮「コパケン」と歌おう！～市民による第九演奏会～などのソロリストとして多数出演。

現在、神奈川県合唱連盟理事、同連盟合唱プロジェクト、サガミコミュニケーション、神奈川県合唱講習会、栄区メサイア講座講師。
コーロ・しるふれい、In Pace、金沢混声合唱団常任指揮者、サウンドブリッジ合唱団、JVC合唱団指導員、栄区混声合唱団、小田原男声合唱団ヴォイス・トレンナー。声楽を多田羅迪夫、桑原妙子の各氏に師事。

小田原男声合唱団 定期演奏会の歩み

- S47. 1972 第1回(5/16) I グノー ミサ曲2番 II 雨 III 碑 IV ポピュラーアルバム V 日本民謡
- S48. 1973 第2回(6/16) I 蛙の歌 II チャイコフスキ一歌曲集 III 月光とピエロ
- S49. 1974 第3回(7/ 6) I グノー 聖チェチリアのミサ II 柳河風俗詩 III シーシャンティエ IV 枯木と太陽の歌
- S50. 1975 第4回(6/28) I 日本民謡 II 雨 III 水のいのち IV シューベルト曲集
- S51. 1976 第5回(6/26) I ケルビーニ レクイエム II 子供の四季 III オペラ合唱曲(新星日響)
- S52. 1977 第6回(7/ 2) I イタリア歌曲 II メンデルスゾーン合唱曲 III 岬の墓 IV 白秋詩集 V 黒人霊歌
- S53. 1978 第7回(7/ 8) I シューベルト 長調ミサ曲 II 海の構図 III ジプシーの歌 IV ミュージカル名曲
- S54. 1979 第8回(7/ 7) I モーツァルト フリーメゾンコンサート II 中勅助の詩から III トスティ名曲 IV 日本民謡
- S55. 1980 第9回(7/12) I シューベルト ドイツミサ II 島よ III ミツチミラー名曲 IV 阿波
- S56. 1981 第10回(7/11) I 小学唱歌 II マーラー さすらう若人の歌 III 雪明かりの路 IV サンサンズ曲集
- S57. 1982 第11回(7/10) I 沙羅 II 月光とピエロ III シーシャンティエ IV シュトラウスのワルツ集
- S58. 1983 第12回(7/ 2) I グノー 聖チェチリアのミサ II 海鳥の詩 III レハール メリーウィードー IV 愛唱歌
- S59. 1984 第13回(7/ 8) I 北斗の海 II 枯木と太陽の歌 III 黒人霊歌 IV ドイツ民謡(大磯小学校合同)
- S60. 1985 第14回(7/13) I シューベルト合唱曲 II 月下の一群 III 蛙の歌 IV ウェスタンノスタルジア
- S61. 1986 第15回(7/12) I わがふるき日のうた II 学生王子 III 愛唱歌
- S62. 1987 第16回(11/ 4) 客演 黒岩英臣 I タリス エレミアの哀歌 II シューベルト男声合唱曲集
III 大手拓次の三つの詩 IV 北原白秋の詩から
- S63. 1988 第17回(7/ 9) I 合唱のためのコンポジション6番 II うつむく青年 III ポピュラーソング集
IV オペラ合唱曲集
- H 1. 1989 第18回(7/16) 客演 畑中良輔 I トスティエ名曲集 II シューベルト男声合唱曲集 III 草野心平の詩から
IV 日本の四季
- H 2. 1990 第19回(7/14) I ドイツ民謡集 II ことはあそびうた II III 黒人霊歌から IV 枯木と太陽の歌 雨
- H 3. 1991 第20回(7/13) 客演 多田武彦 小田フィル I 柳河風俗詩 II 三崎のうた III モーツァルト フリーメゾンのためのカンタータ
IV ヴェルディ オペラ合唱曲集
- H 4. 1992 第21回(7/11) 客演 外山浩爾 I 川崎洋の詩 五つの男声合唱曲 II 雨のやみかた III 光の海
IV シュトラウス II ワルツ集
- H 5. 1993 第22回(7/10) I シューベルト 長調ミサ曲 II *Enfance finie* III ロシア民謡 IV 水のいのち
- H 6. 1994 第23回(7/19) 客演 外山浩爾 I 夜の青空 II アイヌのウポポ III ガルシアロルカ 五つのシヤンソン
IV THE NEW MOON より
- H 7. 1995 第24回(11/11) I デュオウバ 荘厳ミサ II フォスター・メドレー
III プラームス ジプシーの歌 IV 日本民謡より
- H 8. 1996 第25回(11/ 2) 客演 外山浩爾 石井 敏 I 柳河風俗詩 II ALL THAT JAZZ III 白秋のうた IV 枯木と太陽の歌
- H 9. 1997 第26回(10/25) I 月下の一群 II ロバートショー ホームソング III 柳河風俗詩 第二
IV シューベルト男声合唱曲集から(森の夜の歌 東京ホルンブレイヤーズ)
- H10. 1998 第27回(11/28) I 雪明かり路 II 五つのラメント III シベリウス男声合唱曲集より IV *Man of La Mancha*
- H11. 1999 第28回(11/ 6) I ドヴォルジャーク ジプシーの歌 II 北陸にて III 今でも…ローセキは魔法の杖
IV デイズニー スタンダードナンバー
- H12. 2000 第29回(10/21) I ロバートショー 小学唱歌 II 人間の歌 III メンデルスゾーン男声合唱曲 IV 阿波
- H13. 2001 第30回(11/10) I 白秋のうた II アルヴェン男声合唱曲集 III オペレッタ名曲集(学生王子から こうもり)
IV 西湘の風雅(多田武彦 30周年記念委嘱初演)
- H14. 2002 第31回(11/ 9) I *Missa O Magnum Mysterium* II 光の海 III プラームス 愛の歌 IV 日本民謡
- H15. 2003 第32回(11/ 8) 客演 有村祐輔 I マテドヤ男声曲集 II 日本抒情歌曲集 III ルネサンス モテット集
IV 富士山
- H16. 2004 第33回(11/13) I 春夜に寄す(初演) II 五つのラメント III グノー 第2ミサ曲 ト短調
- H17. 2005 第34回(11/12) I 月光とピエロ II *CANTA DOMINO* III みんなの知っている歌
(見上げてごらん夜の星を 雪のふるまをを さらは青春 遠くへ行きたい 川の流れのよに) IV 白き花鳥図
- H18. 2006 第35回(11/18) I 石橋の町 II *SCHUBERT* 曲集 アルトルソロ岡田三千代 III 宮崎駿アニメ映画音楽集
(さんば いつも何度でも 信長貴富 委嘱編曲初演) IV 互寒小景(多田武彦 委嘱初演)

平成19年(2007年)の活動

年.月.日	曜	演 奏 会 等	会 場	指 揮	備 考
2007. 1. 9	火	平成19年 歌いはじめ	旭丘高校音楽室	牛丸	
2. 10	土	平成18年度 総会	小田原市民会館		
2. 18	日	神奈川県合唱協会 (KAMCA) 合同練習	川崎市総合自治会館	(中館)	水のいのち
3. 17	土	神奈川県合唱協会 (KAMCA) 合同練習	川崎市産業振興会館	(中館)	水のいのち
3. 24	土	小田原 第九ゲネプロ	小田原市民会館 大H	小林研一郎	
3. 25	日	コヴァンと歌おう! ~ 根による 軌 演奏会 ~	小田原市民会館 大H	小林研一郎	
4. 14	土	神奈川県合唱協会 (KAMCA) 第7回 演奏会	川崎市教育文化会館	外山 (中館)	シェーベルト合唱曲集より / 水のいのち
5. 20	日	サンシティ横浜 演奏会	サンシティ横浜H	牛丸	箱根八里/最上川舟歌/ふるさとの四季 他
6. 3	日	第56回 湘南合唱祭	厚木文化会館	牛丸	シェーベルト合唱曲集より
9. 29	土	日枝戦隊会 (アルベルト・フィッシャー合同)	小田原ロビンソン百貨店	牛丸	箱根八里/ノーラン節/最上川舟歌/他
10. 6	土	強化合宿	いこいの村あしがら	外山 牛丸	全曲
10. 7	日	強化合宿	いこいの村あしがら	牛丸	全曲
10. 14	日	第41回 小田原市民合唱祭	小田原市民会館 大H	牛丸	シェーベルト合唱曲集より
10. 26	金	バルト三国演奏旅行	リトニア 国立ドラマ劇場	外山	
12. 8	土	第36回 定期演奏会	小田原市民会館 大H	外山 牛丸	全曲
12. 25	火	平成19年 納会	旭丘高校音楽室	外山 牛丸	
2008. 1. 8	火	平成20年 歌いはじめ	旭丘高校音楽室	牛丸	
3. 15	土	根による モーツァルト・クワイエム 演奏会	小田原市民会館 大H	小林研一郎	
6. 22	日	第57回 湘南合唱祭	藤沢市民会館 大H	牛丸	
9. 14	日	第19回 日本男声合唱協会 (JAMCA) 滋賀演奏会	びわ湖ホール	外山	多田武彦 委嘱作品 初演 / 他
10. 19	日	第42回 小田原市民合唱祭	小田原市民会館 大H	牛丸	
11. 8	土	第37回 定期演奏会	小田原市民会館 大H	外山 牛丸	多田武彦 委嘱作品 / 海の構図 / 他

男声合唱協会 関係の予定

- ◇ 第18回 日本男声合唱協会 (JAMCA) 弘前演奏会 2007.07.15(日) 3連休 (個人参加)
- ◇ 第7回 神奈川県男声合唱協会 (KAMCA) 川崎演奏会 2007.04.14(土) シェーベルト / 水のいのち
- ◆ 第19回 日本男声合唱協会 (JAMCA) 滋賀演奏会 2008.09.14(日) 3連休 びわ湖ホール
- ◆ 第8回 神奈川県男声合唱協会 (KAMCA) 県央演奏会 2009.04~05月 (案)
- ◆ 第20回 日本男声合唱協会 (JAMCA) 小田原予定 2010.10.10(日) (期日等は案、城下町ホール)
- ◆ 第9回 神奈川県男声合唱協会 (KAMCA) 小田原予定 2011.04~05月 (期日等は案、城下町ホール)

